

＜事務事業評価表＞

平成26年度

母子寡婦福祉会運営費補助事業

評価表

No. 13

〔単位：千円、人〕

1 事務事業の位置付け (Plan)						
所管部課名	市民福祉部 子育て支援課		担当者	仮屋 圭子		
根拠法令等	母子寡婦福祉協議会運営費補助金交付要領		マニフェスト関連	□		
事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> ソフト事業 <input type="checkbox"/> 建設・整備事業 <input type="checkbox"/> 施設管理 <input type="checkbox"/> 内部管理 <input type="checkbox"/> 特定事業 <input type="checkbox"/> 義務的事業 <input checked="" type="checkbox"/> 裁量事業					
政策	健康で共に支え合うまちづくり		施策	子育て支援・児童福祉の充実		
			小施策	子育て支援体制の整備及び児童福祉の充実		
予算科目等	会計	一般会計				
	款	民生費	項	児童福祉費	目	母子福祉費
	事項	母子福祉対策事業費		細事項	母子寡婦福祉会運営費補助事業費	
2 事務事業の実施 (Do)						
事業の内容	概要	母子家庭及び寡婦家庭の福祉の向上に資するものとして、運営補助金を交付する。				
	対象（誰を、何を対象とする事業か）	母子家庭及び寡婦家庭				
	意図（どのような状態にしたいのか）	母子家庭及び寡婦家庭の福祉の向上				
	手段（市がどのような活動をするか）	補助金の交付、指導、助言				
	事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（⇒ 年度～ 年度）				
	活動指標	市からの補助金額	指標名	目標値	目標年度	
	成果指標	母子寡婦福祉協議会会員数		0円	平成31年度	
経費及び指標の推移	項目	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額	平成27年度 見込額	平成28年度 見込額
	事業費	276	280	278	278	278
	補助金	276	280	278	278	278
	母子寡婦福祉協議会運営補助	276	280	278	278	278
	財源内訳					
	国・県支出金					
	その他					
	一般財源	276	280	278	278	278
	要員配置状況	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
	職員	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
	嘱託員					
	臨時職員等					
	活動指標の推移	276千円	280千円	278千円	278千円	278千円
成果指標の推移	276人	280人	278人	280人	285人	
特筆すべき事項等						

＜事務事業評価表＞

3 事務事業の視点別評価 (Check)									
妥当性	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; border: 1px solid black; background-color: #e0ffe0;">対象・手段の妥当性</td> <td style="border: 1px solid black;"> <input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地はある <input type="checkbox"/> 妥当ではない </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">(上記選択の理由) 社会福祉団体でもあり、市が関わり補助金を交付しているが、自主財源もあることから、自立運営までの支援と考える。</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; background-color: #e0ffe0;">市が関与すべき妥当性</td> <td style="border: 1px solid black;"> <input type="checkbox"/> 市が関与すべき <input checked="" type="checkbox"/> 民間でも可能 <input type="checkbox"/> 民間で実施すべき </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">(上記選択の理由) 社会福祉団体でもあり、市が関わっているが、他の福祉団体等との協働運営なども考えられる。</td> </tr> </table>	対象・手段の妥当性	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地はある <input type="checkbox"/> 妥当ではない	(上記選択の理由) 社会福祉団体でもあり、市が関わり補助金を交付しているが、自主財源もあることから、自立運営までの支援と考える。		市が関与すべき妥当性	<input type="checkbox"/> 市が関与すべき <input checked="" type="checkbox"/> 民間でも可能 <input type="checkbox"/> 民間で実施すべき	(上記選択の理由) 社会福祉団体でもあり、市が関わっているが、他の福祉団体等との協働運営なども考えられる。	
	対象・手段の妥当性	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地はある <input type="checkbox"/> 妥当ではない							
(上記選択の理由) 社会福祉団体でもあり、市が関わり補助金を交付しているが、自主財源もあることから、自立運営までの支援と考える。									
市が関与すべき妥当性	<input type="checkbox"/> 市が関与すべき <input checked="" type="checkbox"/> 民間でも可能 <input type="checkbox"/> 民間で実施すべき								
(上記選択の理由) 社会福祉団体でもあり、市が関わっているが、他の福祉団体等との協働運営なども考えられる。									
効率性	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; border: 1px solid black; background-color: #e0ffe0;">事業費の削減余地</td> <td style="border: 1px solid black;"> <input type="checkbox"/> 削減の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地はない </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">(上記選択の理由) 事業を市が行うより、母子寡婦福祉協議会が行ったほうが事業費がかからず、また補助額の上限を会費と同額としているため補助額にも妥当性があり、削減の余地はない。 ※会員数に1,000円を乗した額で定められている。</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; background-color: #e0ffe0;">要員配置の削減余地</td> <td style="border: 1px solid black;"> <input type="checkbox"/> 削減の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地はない </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">(上記選択の理由) 申請手続き等の円滑を図るための最低限の配置である。</td> </tr> </table>	事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地はない	(上記選択の理由) 事業を市が行うより、母子寡婦福祉協議会が行ったほうが事業費がかからず、また補助額の上限を会費と同額としているため補助額にも妥当性があり、削減の余地はない。 ※会員数に1,000円を乗した額で定められている。		要員配置の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地はない	(上記選択の理由) 申請手続き等の円滑を図るための最低限の配置である。	
	事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地はない							
(上記選択の理由) 事業を市が行うより、母子寡婦福祉協議会が行ったほうが事業費がかからず、また補助額の上限を会費と同額としているため補助額にも妥当性があり、削減の余地はない。 ※会員数に1,000円を乗した額で定められている。									
要員配置の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地はない								
(上記選択の理由) 申請手続き等の円滑を図るための最低限の配置である。									
有効性	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; border: 1px solid black; background-color: #e0ffe0;">成果の達成度</td> <td style="border: 1px solid black;"> <input type="checkbox"/> 達成度はかなり高い <input type="checkbox"/> 達成度はやや高い <input checked="" type="checkbox"/> 達成度は低い </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">(上記選択の理由 ※成果指標の過去の動向把握(5段階)結果を含めて選択理由を記入) ●過去の動向把握…<input type="checkbox"/>大きく改善、<input type="checkbox"/>改善、<input type="checkbox"/>ほぼ横ばい、<input checked="" type="checkbox"/>減少、<input type="checkbox"/>大きく減少 他の女性団体等と同様に会員が高齢化し、市の補助金を当てにしている。会員増への働きかけもないまま、会員は減少している。</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; background-color: #e0ffe0;">成果の向上余地</td> <td style="border: 1px solid black;"> <input type="checkbox"/> 余地がかなりある <input type="checkbox"/> 余地がある程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 余地はほとんどない </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">(上記選択の理由) 少なくとも市の補助金により、団体運営が円滑に図られている。</td> </tr> </table>	成果の達成度	<input type="checkbox"/> 達成度はかなり高い <input type="checkbox"/> 達成度はやや高い <input checked="" type="checkbox"/> 達成度は低い	(上記選択の理由 ※成果指標の過去の動向把握(5段階)結果を含めて選択理由を記入) ●過去の動向把握… <input type="checkbox"/> 大きく改善、 <input type="checkbox"/> 改善、 <input type="checkbox"/> ほぼ横ばい、 <input checked="" type="checkbox"/> 減少、 <input type="checkbox"/> 大きく減少 他の女性団体等と同様に会員が高齢化し、市の補助金を当てにしている。会員増への働きかけもないまま、会員は減少している。		成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 余地がかなりある <input type="checkbox"/> 余地がある程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 余地はほとんどない	(上記選択の理由) 少なくとも市の補助金により、団体運営が円滑に図られている。	
	成果の達成度	<input type="checkbox"/> 達成度はかなり高い <input type="checkbox"/> 達成度はやや高い <input checked="" type="checkbox"/> 達成度は低い							
	(上記選択の理由 ※成果指標の過去の動向把握(5段階)結果を含めて選択理由を記入) ●過去の動向把握… <input type="checkbox"/> 大きく改善、 <input type="checkbox"/> 改善、 <input type="checkbox"/> ほぼ横ばい、 <input checked="" type="checkbox"/> 減少、 <input type="checkbox"/> 大きく減少 他の女性団体等と同様に会員が高齢化し、市の補助金を当てにしている。会員増への働きかけもないまま、会員は減少している。								
成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 余地がかなりある <input type="checkbox"/> 余地がある程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 余地はほとんどない								
(上記選択の理由) 少なくとも市の補助金により、団体運営が円滑に図られている。									
4 事務事業の改革・改善の方向性 (Action)									
内部評価結果	今後の改革の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 見直しの上で継続 ⇒ 今後の方向性： <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 他の事業と統合 <input type="checkbox"/> 手段の改善 <input type="checkbox"/> 移管 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止								
	上記方向付けの理由 自力運営を指導するが、現状のままの継続となる可能性が高い。								
	改革・改善の内容とそれを実施していくための手段・計画								

外部評価結果	事務事業の視点別評価 妥当性 ⇒ <input type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> 低い 効率性 ⇒ <input type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> 低い 有効性 ⇒ <input type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> 低い
	今後の改革の方向性 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 見直しの上で継続 ⇒ 今後の方向性： <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 他の事業と統合 <input type="checkbox"/> 手段の改善 <input type="checkbox"/> 移管 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 まとめ（補助金等評価を含む。）

所管部課名	市民福祉部 子育て支援課		担当者	仮屋 圭子					
事務事業名	母子寡婦福祉会運営費補助事業								
根拠法令	母子寡婦福祉協議会運営費補助金交付要領								
補助経過年数	6年以上10年以下								
平成26年度 予算額	278千円	国県支出金	その他	一般財源	その他の内容				
		千円	千円	278千円					
	指標名			目標値	目標年度				
成果指標①	研修会の参加人員数（延人数）			300人	平成31年度				
成果指標②									
補助対象者	母子寡婦福祉協議会								
補助対象経費	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の運営に要する経費（役員報酬、食糧費、慶弔費を除く） ・事業・活動に要する経費（食糧費を除く） 								
補助対象事業・活動の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の運営 ・母子及び寡婦家庭の福祉に関する活動 ・母子及び寡婦家庭の研修事業 ・その他社会福祉活動 								
	分類	<input type="checkbox"/> 運営補助のみ		<input type="checkbox"/> 事業補助のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 運営補助と事業補助の両方		<input type="checkbox"/> その他	
補助金額又は補助率	経費の合計の2分の1の額（限度額：会員数×1,000円）								
上記項目の積算方法									
補助を 受ける 事業（ 団体） 等の 決算 状況	項目		平成23年度		平成24年度		平成25年度		
			金額（円）	割合（％）	金額（円）	割合（％）	金額（円）	割合（％）	
	収入	自己資金		831,102	67.7%	805,444	68.2%	816,621	72.4%
		会費収入		320,000	26.0%	278,000	23.5%	280,000	24.8%
		事業収入		310,453	25.3%	251,759	21.3%	261,582	23.2%
		寄付金・その他助成		200,649	16.3%	275,685	23.3%	275,039	24.4%
		市補助金		320,000	26.0%	276,000	23.4%	280,000	24.8%
					0.0%		0.0%		0.0%
		（前年度繰越金）		77,362	6.3%	100,251	8.5%	31,299	2.8%
	計		1,228,464	100.0%	1,181,695	100.0%	1,127,920	100.0%	
	支出	事業費		85,671	7.0%	81,290	6.9%	51,084	4.5%
		人件費		54,000	4.4%	54,000	4.6%	54,000	4.8%
		その他事務費		988,542	80.5%	1,015,106	85.9%	929,484	82.4%
					0.0%		0.0%		0.0%
					0.0%		0.0%		0.0%
					0.0%		0.0%		0.0%
		（翌年度繰越金）		100,251	8.2%	31,299	2.6%	93,352	8.3%
計		1,228,464	100.0%	1,181,695	100.0%	1,127,920	100.0%		
支出計/前年度支出計				96.2%		95.4%			
自己資金/前年度自己資金				96.9%		101.4%			
翌年度繰越金/市補助金		31.3%		11.3%		33.3%			
交付件数		1件		1件		1件			
成果指標の推移①		543人		370人		203人			
成果指標の推移②									
特記すべき事項等									

要件	項目	評価	評価した内容についての説明
公益性	補助の対象となる事業又は補助を受ける団体等の活動が、直接又は間接に、不特定多数の市民の福祉の向上及び利益の増進に寄与している。	B	この会は母子家庭・寡婦という特定の市民を対象とした組織であり、会員の福祉向上と利益増進に寄与している。最近は、父子世帯や会員外の市民に対しても、活動への参加や相談窓口を設けている。
必要性	次のいずれかに該当するものである。	B	②に該当する。 今日の経済状況の中で、母子・寡婦家庭をめぐる生活環境は厳しくなっており、相談窓口や就業・自立支援等は必要であり、会はその受け皿として関係機関との連携等の役割を果たしている。会員の高齢化等で、自主運営が難しい面もあり、引き続き支援は必要である。
	① 特定の目標・成果の達成に向けて、一定の団体等に一定の補助を行うことが直ちに必要であると認められる。		
適格性及び妥当性	② 社会的弱者の救済、地域的ハンディの克服等の観点から、当面、補助を通じた行政の支援が必要であると認められる。	B	意識の多様化や母子世帯の多くが就業している中で、若い世代は加入を敬遠しているが、寡婦の加入はあり、母子世帯・寡婦世帯の福祉向上の拠り所になっている。
	達成しようとする目標・成果が市民ニーズに合致しており、かつ、その目標・成果の達成に向けて、適切な効果を生じている。（その目標・成果を測るための適当な効果指標の設定がなされている。）		
適格性及び妥当性	① 補助の対象となる事業について、行政が直接実施するよりも、行政以外の者が行う方が適当であると明確に認められる。	B	身近なところで助け合い活動や自立を促進していく為には、同じ様な環境にある者の自主的な運営が望ましい。
	② 補助率又は補助額が、明確な根拠によって積算されたものであり、かつ、社会経済情勢に照らし、著しく妥当性を欠く水準とはなっていない。（交付要綱の補助基準）	B	会員数又は会の活動に応じた補助で、自らの会費とも同額であり、妥当性はある。
	③ 補助を受ける団体等の活動状況等に照らし合わせて、自助努力がみられないなど、明らかに半永続的・固定的な補助にはならないと見込まれる。	B	今後も、若い世代の会員拡大や参加しやすい活動等をすすめ、将来的には補助を受けなくても運営できるように、自助努力を支援していく。
	④ 当該補助事業以外にその団体が行う活動の状況においても一定の公益性が認められる。	B	母子・寡婦家庭で抱えている問題について、相談窓口や行政との繋ぎ等の役割もある。 就学や疾病などの家庭支援が必要な方へ各地域で支援を展開している。
	⑤ 特定の目標・成果の達成に向けて、当該補助金等の交付以外に適当な政策手段がないか、又は当該補助金等の交付が最も妥当な政策手段であると明確に認められる。	B	母子・寡婦家庭の支援を地域で身近に行なえるということでは、母子寡婦福祉会に補助をすることは適当である。
	⑥ 補助の対象となる経費が、明確に規定され、その内容は補助目的に照らし、公費を充てるものとして、著しく妥当性を欠くものとはなっていない。	B	補助金については、各支部ごとの活動費として充てられるので、妥当性はある。

〈補助金の見直し結果〉

内部評価（一次）結果	≪今後の改革の方向性≫ <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 見直しの上で継続 ⇒今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 他の補助金と統合 <input type="checkbox"/> 補助内容の改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 移管 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
	≪上記方向の理由≫ 自力運営を指導するが、現状のままの継続となる可能性が高い。
	≪改革・改善の内容とそれを実施していくための手段・計画≫